



統計スポット情報

No. 4

9. 7. 31 福井県総務部情報政策課

伸びるサービスへの支出

今回は、「家計調査年報」から福井市の財、サービス別の消費支出の動向を見てみましょう。

消費支出を、財とサービスに分けて、その実質金額指数（昭和57年=100）の推移を見てみると、平成3年以降、サービスの伸びが財の伸びを上回っています。昭和57年から平成8年までの間に、財への支出が1.2倍の伸びであるのに対して、サービスは1.4倍となっています。（図1）

（注）実質金額指数とは、支出金額から消費者物価の上昇分を除いて、基準年を100として指数化したものです。

次に、消費支出に占める財とサービスの区分別構成比を見てみると、財への支出割合は、昭和59年の67.0%から平成8年には63.6%に縮小しているのに対し、サービスへの支出割合は33.0%から36.4%へと拡大しています。

財への支出の内訳を見ると、自動車や通信機器などの耐久財は0.5ポイント拡大、洋服などの半耐久財と外食を除く食料や家事用消耗品などの非耐久財はそれぞれ2.9ポイント、1.0ポイント縮小しました。（図2）

さらに、外食や旅行費などのサービスへの支出の内訳について、昭和57年と平成8年を比べてみると、住居が2.4倍と最も高く、次いで、教養娯楽が1.8倍、交通・通信が1.6倍となっています。（図3）

図1 財・サービス区分別の実質金額指数の推移（昭和57年=100）

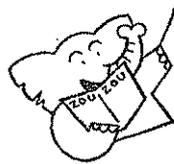
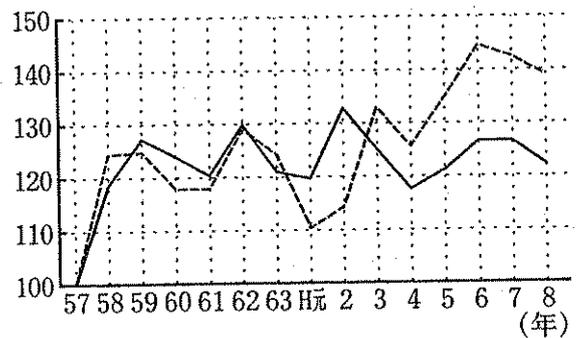


図2 財・サービス区分別構成比の推移

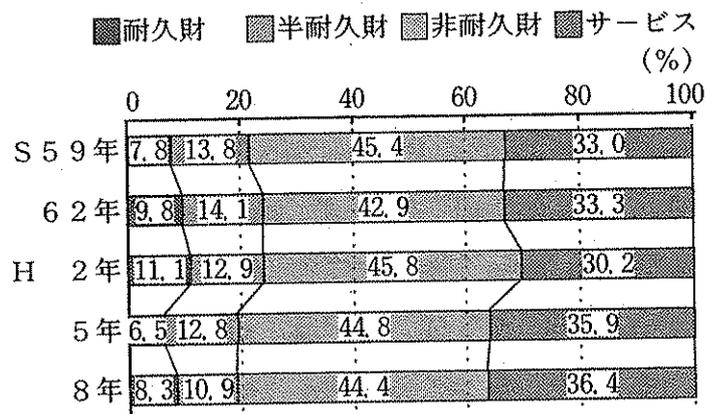
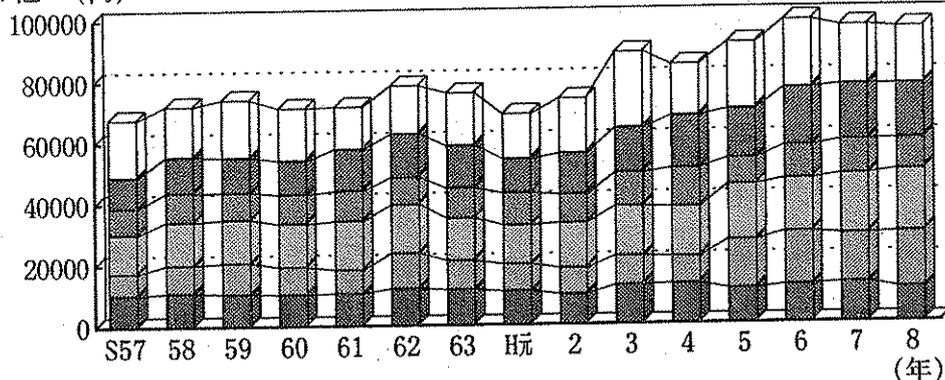


図3 サービス支出の推移



統計で働く姿を見つめよう

平成9年就業構造基本調査＝平成9年10月1日＝

